

古地図の世界－外国図－

平成15年4月2日(水)～6月1日(日)

地図の歴史は文字よりも古いといわれ、古地図からは、その時代の歴史や人々の地理観など、製作された時代の情報を読み取ることができます。また、新旧の古地図を比較することにより、人々の地理的視野の広がりや土地への認識、表現や製作方法の進歩なども理解することができます。

ヨーロッパの中世は、キリスト教（聖書）の影響により地図製作についての発達をあまり見ませんでしたが、十字軍の遠征とそれに続くルネッサンスを経て、大航海時代に入ると、地理的視野の拡大とともに地理学や地図が大いに発展しました。特に地図は、想像の世界から現実の世界へと人々の目を向けさせてきました。

また、ヨーロッパの古地図は機能性ばかりではなくデザイン的にも美しく、現在もカレンダーやインテリアの一部として利用されることもあります。

今回の展示では、「古地図の世界 - 外国図 -」をテーマに、16から19世紀にかけて製作された古地図の中から、当時の代表的地図製作者であるブラウやオルテリウス、リンスホーテン、メルカトル、ホンディウスなどが製作した世界図や、ヨーロッパ、アフリカなどの大陸図を紹介しました。

これらの古地図から、地理的視野が拡大していく様子や、地図の表現方法やデザイン性の変遷を楽しんでいただけたと思います。



プトレマイオス型世界図 作者不詳
1560年頃 31.5×42.5cm 木版一色刷
(山下和正氏 蔵)

ローマ時代には科学が大きく発達し、2世紀頃活躍したギリシャのプトレマイオスも地理学や地図の発達に大いに貢献しました。この図は、プトレマイオスが作製されたとする地図をほぼ踏襲して描かれたものです。

2世紀頃のヨーロッパ人に知られていた世界は、現在のほぼ1/4程度であったといわれています。このため、プトレマイオスの世界図も経度で180°（ただし、図上ではおよそヨーロッパからインド東部まで）、南緯20°までの範囲を円錐図法で表現したものです。

ヨーロッパの地名として、「Gelmania」（ゲルマニア現ドイツ）や「Italia」（イタリア）などを読み取ることができます。また、アフリカについては地中海を利用した交易が盛んであった

め、かなり正確に記載されていますが、アフリカの南方に広がる大陸については、「Terra incognita」（テラ・インコグニタ 未知の土地）となっています。



アジア図 ホンディウス
1606年 48.0×56.0cm 銅版手彩色
(山下和正氏 蔵)

この図は、ウィリアム・ブラウのアジア図に先立つものですが、両者を比較するとその精度に大きな開きがあります。特に、朝鮮半島と日本にそれがよく現れています。しかし、西アジアから南アジアについては、交易が盛んであったためか、沿岸部はそれ以前の地図と比べると正確さを増しています。

実用性以外に彩られた地図は、居間やや客間のインテリアとして家庭で利用されていました。